

「日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN)」は、河川再生に関わる事例・経験・活動・人材等を交換・共有することを通じ、各地域に相応しい水辺再生の技術や仕組みづくりの発展に寄与することを目的に2006年11月に設立されました。また、日中韓を中心に活動する「アジア河川・流域再生ネットワーク(ARRN)」の日本窓口として、日本の優れた知見をアジアに向け発信し、同時に海外の素晴らしい取組みを日本国内に還元する役割を担います。

目次	Pages
➤ JRRN 事務局からのお知らせ.....	1
➤ 会員寄稿記事.....	6
➤ 研究・事例紹介.....	7
➤ 会議・イベント案内.....	8
➤ 冊子・ビデオ等の紹介.....	8
➤ 会員募集中.....	9

巻頭書記

JRRN ニュースレターも今回で 50 号を迎えました。会員の皆様のご支援・ご協力に感謝するとともに、今後もより有益な情報を発信・共有できるよう尽力してまいります。

本号では、JRRN 活動報告として、今年 11 月に予定している ARRN/JRRN 主催『第 8 回水辺・流域再生に関わる国際フォーラム』開催のご案内、会員皆様からご協力を頂きました河川再生事例集に関するアンケート調査の集計結果をご報告しています。また、「水辺か

らのメッセージ No.27」として山形市の「山形五堰」、ARRN 編集による「アジアに適応した河川環境再生の手引き ver.2」更新に関わる情報を提供しています。

今年 11 月は ARRN/JRRN 設立 5 周年を迎える重要な節目ということで、会員の皆様が積極的に参加できるネットワーク活動を提案していきたいと考えています。今後も皆様からのご支援・ご協力をお願いするとともに、これからの夏の盛りに皆様のご健康に過ごせますことをご祈りいたします。

JRRN 事務局からのお知らせ(1)

ARRN/JRRN 主催『第 8 回水辺・流域再生に関わる国際フォーラム』ご案内 (11 月 11 日・東京)

本年で8回目となりますARRN/JRRN主催『水辺・流域再生にかかわる国際フォーラム』を、2011年11月11(金)午後にて東京にて開催することが決まりました。

第1回～第4回までを東京にて、第5回フォーラムは中国・北京にて開催し、第6回・第7回と韓国・ソウルにおいて連続して開催致しましたが、本年は4年ぶりに日本での開催となります。

なお、本年の国際フォーラムは、河川整備基金の助成を受けて開催致します。また、過去全7回の国際フォーラムの講演テーマを次頁にてご紹介させていただきます。

本行事の詳細はJRRNホームページ及びJRRNニュースレターで後日改めてお知らせ致しますので、もうしばらくお待ちください。皆様のご参加を心よりお待ちしております。(JRRN事務局 和田彰)

第 8 回水辺・流域再生に関わる国際フォーラム 企画(案)

- (1) 日時: 2011 年 11 月 11 日(金) 13:00～16:30
- (2) 場所: 東京都内の会議場
- (3) 定員: 100 名～200 名
- (4) 通訳: 日英同時通訳(予定)
- (5) 主催: アジア河川・流域再生ネットワーク(ARRN)
日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN)
- (6) テーマ:
減災と環境保全の視点から都市河川再生を考える
- (7) プログラム:
-13:00-13:10 開催挨拶等
-13:10-13:20 ARRN ガイドライン ver.2 紹介
-13:20-15:00 講師による講演 ※各講演 20 分程度
欧米、アジア、中国、韓国、日本の講師による
河川再生の話題提供
-15:10-16:20 パネルディスカッション
※上記の全講師参加(座長:玉井信行 ARRN 会長)
-16:20-16:30 閉会

【ARRN 水辺・流域再生に関わる国際フォーラム 第1回～第7回の講演タイトル一覧】

■ 第1回フォーラム（2005年1月19日 東京）

- 【講演1】韓国・清溪川再生事業における水文学的考察（韓国建設技術研究院 KICT Dr. Sung Kim）
- 【講演2】都市河川における浄化と美化：シンガポールの経験（シンガポール貿易省電気水道局 Mr. Yap Kheng Guan 他）
- 【講演3】中国・蘇州河再生事業の紹介（上海蘇州河環境整備事業団本社 Dr. Ming Hua）
- 【講演4】チェサピーク湾再生への歩み（メリーランド州天然資源省 Dr. C Ronald Franks）
- 【講演5】流域連携による河川再生：イギリス・マージ川流域キャンペーン（マージ川流域キャンペーン Mr. Mark Turner）
- 【講演6】ヨーロッパ河川再生センター ―環境、経済、文化の持続可能なバランスに向けて（ECRR Ms. Ute Menke）

■ 第2回フォーラム（2005年10月27日 東京）

- 【講演1】中国・漢口リバーフロント総合的洪水予防と環境改善と再生事業（武漢市水務局 Dr. Jiang TieBing）
- 【講演2】フィリピン・パシグ川マスタープラン（パシグ川再生委員会 Dr. Bingle H. B.Gutierrez）
- 【講演3】米国・包括的エバングレース再生プログラム（南フロリダ水管理局 Mr. Paul A. Warner）
- 【講演4】イタリアにおける河川再生における課題と今後の展開（イタリア河川再生センター Mr. Giuseppe Dodaro）
- 【講演5】マレーシアとインドネシアにおける河川流域イニシアティブの取組み（地球環境センター Mr. Faizal Parish）
- 【講演6】韓国における河川復元の事例（韓国建設技術研究院 KICT Dr. Hong-Kyu Ahn）

■ 第3回フォーラム（2006年11月9日 東京）

- 【講演1】ヨーロッパの情報交換ネットワークの活用と河川政策の今（フィンランド環境研究所 Mr. Jukka Jormola）
- 【講演2】三峡ダム事業向上のための環境に配慮した水文学的、水力学的研究調査プロジェクト（IWHR Dr. Wen Gen Liao）
- 【講演3】韓国の河川再生について（韓国建設技術研究院 KICT Dr. Chang Wan Kim）
- 【講演4】日本の河川再生について（国土交通省河川局河川環境課 原田昌直）
- 【講演5】マレーシアにおける河川再生（マレーシア灌漑排水局河川部 Ir. Weng Keong Cho）

■ 第4回フォーラム（2007年11月30日 東京）

- 【講演1】隅田川を中心とした河川再生（東京都建設局 長島修一）
- 【講演2】韓国の河川再生プロジェクト（韓国建設交通部河川計画課 Mr. Sukhyun Kim）
- 【講演3】中国・長江における“四大家魚”の産卵環境再生について（中国水利水電科学研究院 IWHR Dr. Wen Gen Liao）
- 【講演4】タイの河川・湿地再生に関する取組み（タイ天然資源環境省 Mr. Surapol Pattanee）
- 【講演5】ヨーロッパの河川再生に向けた政策と情報交換（イギリス河川再生センター Mr. Martin Janes）

■ 第5回フォーラム（2008年11月4日 中国・北京）

- 【講演1】河川環境改善に向けた生物・非生物的要因の関係分析～韓国京畿地方の事例（KICT Dr. Chang Wan Kim）
- 【講演2】河川・流域再生における自然共生型環境管理技術開発について～伊勢湾流域圏での取組み（名古屋大学 戸田祐嗣）
- 【講演3】河川再生の理論と実践（中国水利水電科学研究院 Prof. Dong Zheren）
- 【講演4】中国における河川整備と再生（中国清華大学水理科学・技術研究所 Prof. Wang Zhaoyin）
- 【講演5】三峡プロジェクト運営管理における生態系が必要とする条件（中国科学院水資源省 Prof. Chang Jianbo）

■ 第6回フォーラム（2009年9月29日 韓国・ソウル）

- 【講演1】川に流れを取り戻す ～日本における過去・現在・未来（筑波大学 白川直樹）
- 【講演2】中国における河川再生の最新の取組み（中国水利水電科学研究院 IWHR Dr. Dongya Sun）
- 【講演3】河川工学と管理 ～スイスにおける事例から（スイス Canton Thurgau Dr. Marco Baumann）
- 【講演4】韓国4大河川再生事業の基本計画づくりについて（韓国建設技術研究院 KICT Dr. Hong Koo Yeo）

■ 第7回フォーラム（2010年9月14日 韓国・ソウル）

- 【講演1】ヨーロッパにおける河川再生と ECRR（ヨーロッパ河川再生センター Dr. Bart Fokkens）
- 【講演2】黄河デルタにおける環境流量と生態再生の実践（黄河水資源保護科学院 Dr. Xingong Wang）
- 【講演3】GISと野生動物自動追尾システムを用いた Individual Based Model の改良（土木研究所 傳田正利）
- 【講演4】韓国における水圏生態再生のための技術の発展について（韓国 Eco - STAR Project Dr. Sunok Jeon）
- 【講演5】生態的都市河川再生のための意思決定システムモデル（韓国建設技術研究院 KICT Dr. Weon Jae Kim）



第1回フォーラム



第3回フォーラム



第5回フォーラム



第7回フォーラム

JRRN 事務局からのお知らせ(2)

JRRN 河川再生事例集に関するアンケート集計結果の報告

今年はじめの『よみがえる川－日本と世界の河川再生事例集-』の発行に伴い、事例集の内容及びJRRN会員の関心の高い河川環境等に関するアンケート調査を実施し、68名の方々よりご回答を頂きました。以下に、アンケートの集計結果の概要を報告いたします。

なお、詳細な分析結果については、8月中旬頃にJRRNウェブサイトにて公表する予定です。アンケート集計結果、各自由記述欄で頂いたご意見、ご質問やご要望に対するJRRN事務局の回答及び今後のJRRN活動への反映方針については、今後レポートとして報告する予定です。

● 実施期間：2011年6月28日(火)～7月9日(金)

● 回答者数：68名

【1】回答者の属性について

(1) 性別

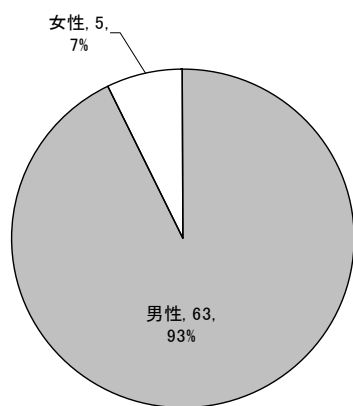


図1 回答者の男女比率

(2) 年齢

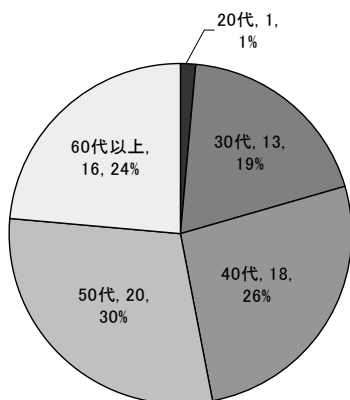


図2 回答者の年齢構成

(3) 所属

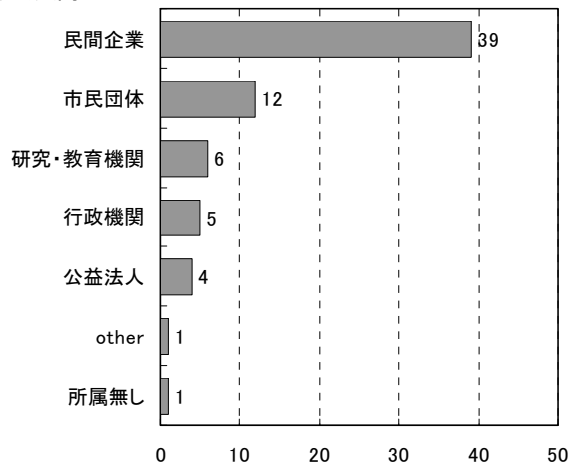


図3 回答者の所属

【2】事例集に関する感想

(1) 各事例に関する内容について

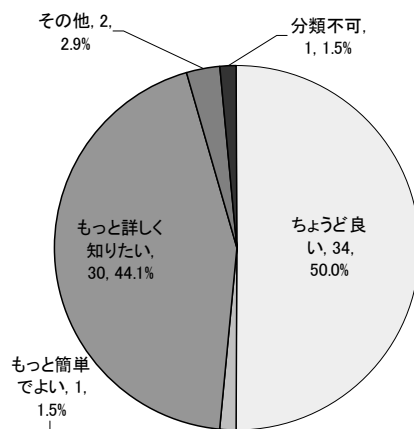


図4 事例集の情報量について

アンケートにご協力いただいた方内、ちょうど良いと思われた方が約半数に対し、更に充実した情報をご希望された方が3割という結果になりました。また「その他」のご意見では、掲載情報の不足や取り上げた事例に偏りがあり、事例集掲載内容の活用ができないとの厳しいご意見もいただきました。

いずれのご意見も大変参考かつ励みになり、今後の活動に反映させていきたいと思います。

(2) 事例集で興味を感じた部分

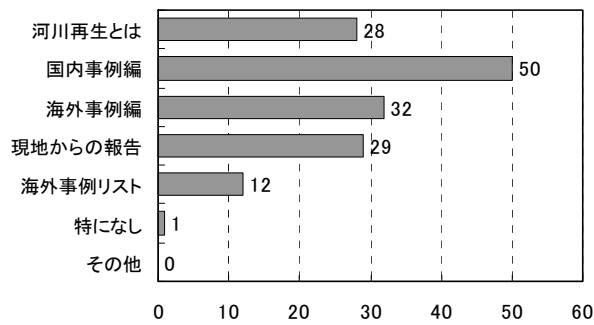


図 5 事例集で興味を感じた部分

事例集の内容については、工法等の技術情報、関連する団体の連絡先、環境保全活動を行う市民団体の活動資金等についての詳細な情報を求めるご意見等をいただきました。

また、事業実施箇所を平面図や航空写真等を併用し、事業の概要や再生の手法の分かりやすい説明を求めるご意見もいただきました。

(3) 関心のある「再生の視点」

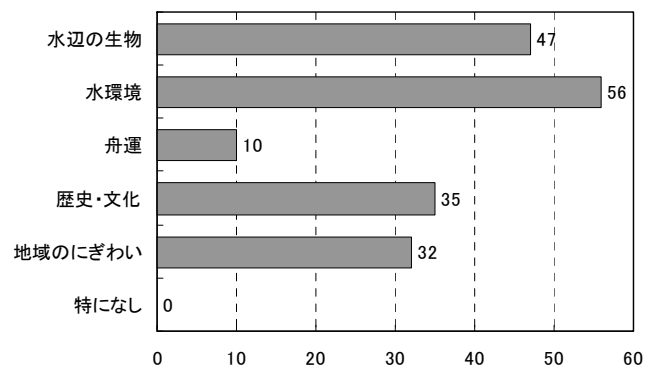


図 6 関心のある「再生の視点」

図 6 では関心のある再生の視点は、「水環境」、「水辺の生物」で有る結果となりました。

更に、事例集で用いた再生の視点以外に、順応的管理等「事業実施後の維持管理」に関する視点、地域住民との「合意形成」に関する事例を求める意見を多くいただきました。

(4) 今後充実して欲しい内容について

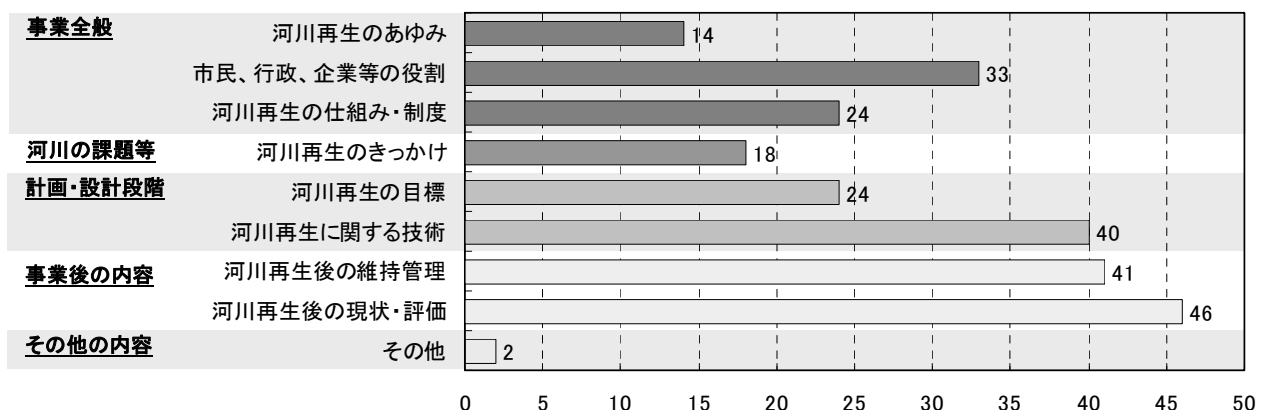


図 7 回答者の年齢構成

今後充実して欲しい内容について、事業の段階別に 4 つの項目に分割し集計しました。

特に充実して欲しい内容としては、「河川再生後の維持管理」、「河川再生後の現状・評価」でともに事業実施後の内容でした。

次に「河川再生に関する技術」、「市民、行政、企業等の役割」と続き、前述の「(3) 関心のある河川再生の視点」に関する設問と類似した結果となりました。

これまで、多くの河川再生に関する事業が実施されてきました。しかし、近年では計画・設計のみならずその後の事業の評価への関心が高まっていることが本

アンケートの結果にも現れました。

【3】最後に

この度のアンケートでは、非常に多くの有益な情報やご意見をいただくことができました。それら情報・ご意見は、更なる日本の河川再生の一助となるよう今後の活動に活かしたいと思います。

また、8 月中旬には各自由記述欄で頂いたご意見、主なご質問やご要望に対して JRRN 活動への反映方針等をレポートで整理します。そちらもご覧頂ければ幸いです。

(JRRN 事務局 伊藤将文)

JRRN 事務局からのお知らせ(3)

JRRN 会員皆様へのお願い ～ 会員参加型のネットワーク活動を目指して ～

2006年12月に第1号を発行したJRRNニュースレターも、本号でようやく50号を迎えることができました。

○全バックナンバーはこちらから

<http://www.a-rr.net/jp/info/letter/newsletter/>

また、本年11月でJRRNは設立から丸5年となります。

今後はこれまで以上に会員参加型のネットワーク活動を展開し、全国の河川再生に携わる方々にとって不可欠の存在になることを目指してまいります。

会員皆様からの提供情報とパワーに支えられたネットワーク活動としていくため、会員皆様へのお願いとして、JRRNへの様々な情報提供や諸活動へのご協力について以下の「JRRNでつながる、河川再生に関わる情報と人・人と人」でまとめてご紹介しましたのでご覧下さい。

(JRRN 事務局 和田彰)

JRRN でつながる、河川再生に関わる情報と人・人と人

河川再生の各種情報をご提供ください

全国で開催されるイベント・書籍・ニュース・テレビ番組、おススメの水辺等々、河川再生に関わるどんな情報でもご提供ください。JRRN ホームページのトップページでご紹介させていただきます。

■情報提供アドレス：jrrn-secre@rfc.or.jp

■掲載場所：<http://www.a-rr.net/jp/exchange/>

▶ 会員/海外関係者からのお知らせ → 一覧はこちら

2011.7.15(会員) ■ 第159回 河川文化を語る会(9月6日東京開催)
2011.7.5(海外) ■ 韓国シドニーの都市河川再生に関する情報源
2011.6.30(会員) ■ 平成23年度 多自然川づくり研修会 第1回及び第2回
2011.6.27(海外) ■ 2011年国際河川賞の決勝進出河川の発表
2011.6.17(会員) ■ 清流ぎふ水環境シンポジウム(7月27日・岐阜開催)
2011.6.16(海外) ■ 英国河川再生センター『第12回年次講演会』資料一式
2011.6.15(海外) ■ 第9回生態水工学国際シンポジウム(QSE2012)
2011.6.10(会員) ■ プロジェクトWET エデュケーター養成講座in浜名湖

トップページでの紹介例(<http://www.a-rr.net/jp/>)

河川再生の取組みをご紹介ください

日本全国で河川再生に向けた素晴らしい取り組みが行われています。会員皆様に関わる河川再生活動について、写真、活動内容、関連情報を含めご紹介ください。ニュースレターの寄稿記事として、またホームページ内でご紹介させていただきます。

■情報提供アドレス：jrrn-secre@rfc.or.jp

■掲載場所：<http://www.a-rr.net/jp/waterside/>



再生事例紹介ページ

ご自身の経験を講師としてお話ししませんか？

河川再生に関わる知見を JRRN 会員で共有し、また意見交換を通じ会員間の交流を深めることを目的として、『JRRN 河川環境ミニ講座』を不定期に開催しています。会員皆様がお持ちの専門知識、また河川再生現場でのご経験等を講師として話題提供頂ける方は、いつでも JRRN 事務局までお知らせ下さい。

■連絡先アドレス：info@a-rr.net



イベント企画や翻訳等のサポーター募集

JRRN では、河川環境ミニ講座や各種専門家との意見交換会、ARRN 国際フォーラム等を主催しています。これら行事企画や、開催成果(講演録等)の取りまとめ等にボランティアとしての参加に関心のある方は、いつでも JRRN 事務局までお知らせ下さい。事務局スタッフとともに JRRN 運営をサポート頂ける会員を募集しております。

■連絡先アドレス：info@a-rr.net



水辺からのメッセージ No.27

国土文化研究所 特任研究員 岡村幸二（JRRN 会員）

御殿堰が導く山形 400 年の心：
雪国山形に欠かせない“がんぎ”の共有空間を今再び市民の憩いの場として



撮影：2011 年 6 月（山形市七日町・御殿堰）

◆地域活性化の力で再び開水路に

山形市は蔵王山系より流れる豊富な水によってできた扇状地です。市街地を網の目のように流れる「山形五堰」は山形のシンボルです。がんぎの付いた木造建築内には、創業 110 年の呉服店とともにデザインショップもあります。新しい水路と両側通路までは山形市が整備し、小砂利を敷いた共同建築前の共有空間は民間の力で“半公半私”の場をつくりました。

※国土文化研究所は、株式会社建設技術研究所のシンクタンク組織です。

■ JRRN 会員皆様からの寄稿記事を募集しています！

旅先で見かけた水辺の風景や思い、水辺再生に関わる様々な活動報告、また河川環境再生に役立つ技術等、JRRN 団体・個人会員皆様からの寄稿記事をお待ちしています。（JRRN 事務局）

研究・事例紹介

ARRN 編集「アジアに適応した河川環境再生の手引き ver.2」更新に向けて

1. 背景・経緯

ARRN では、活動の基軸の一つとして、アジア・モンスーン地域に相応しい河川再生の方法論の確立を目的とし、ARRN が保有するネットワークを活用しながら「アジアに適応した河川環境再生の手引き（以下、「手引き」と記載します）」の作成と更新及び普及に継続的に取り組んでいます。

初版である「手引き ver.1（英語版・日本語版）」は、入門編として、非専門家の方々にも河川再生の意義やアプローチを理解して頂くことを目的に、写真や図を主体に平易な解説文を添えて作成しました。本書は、2009 年 3 月にトルコ・イスタンブールにて開催された「第 5 回世界水フォーラム」にて関係者に配布するとともに、2009 年 4 月に JRRN ウェブサイトに公開しました。

その後、「手引き ver.1」の別冊資料として、アジア及び欧米の河川・流域再生事例の概要等を紹介した「手引き ver.1 別冊事例編（英語版）」を作成し、2010 年 9 月に韓国・ソウルにて開催された「第 8 回生態水工学国際シンポジウム(ISE2010)」にて配布・意見交換を行うとともに、2011 年 1 月に JRRN ウェブサイトに公開しました。

現在は、これまでの ARRN 技術委員会での議論や「ISE2010」での意見交換結果を踏まえ、「手引き ver.2」の更新に向けて作業を進めているところです。



アジアに適応した河川環境再生の手引き ver.1

http://www.a-rr.net/jp/info/letter/publication/index_2.html

2. 更新内容

これまでの ARRN 活動から、河川再生に関するアジア各国の捉え方や事例が整理されつつあり、次のステップとしては、各国の河川再生の特徴の違いを明確にしていくことが重要と考えました。よって、今回の手引きの更新の主旨は、各国の河川再生に関する歴史・背景や、具体的な課題、対策を手引きに組みこむことで、各国の河川再生の多様な特徴やそれらの違いの認識共有に資することとしました。

【主な更新内容】

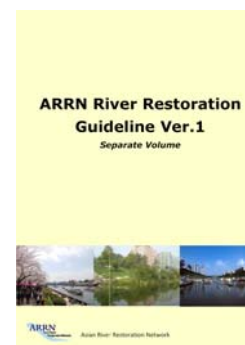
- 河川環境改善に関する背景・経緯、課題及び対策をわかりやすく示した具体例を組み込む。
- 河川再生の参考となる情報源（ウェブサイト）をリスト形式で整理する。

※上記内容は ARRN 技術委員会協議により変更する可能性あり

「手引き ver.2」は、2011 年 11 月に開催予定としている『第 8 回水辺・流域再生に関わる国際フォーラム』での配布を目標に更新を行います。また、「手引き ver.1」が日本色の強いものとなったという反省を踏まえ、今回の更新作業は各国の技術委員による情報交換を主体に進め、各国の情報をバランス良く取り入れることに留意して作業に取り組むこととしています。

「手引き」の作業状況については、JRRN ニュースレター等で継続的にご紹介させていただきます。

(JRRN 事務局 後藤勝洋)



アジアに適応した河川環境再生の手引き ver.1 別冊事例編

<http://www.a-rr.net/jp/info/letter/publication/2527.html>

会議・イベント案内（2011 年 8 月以降）

（JRRN/ARRN 主催・共催の会議・イベント）

■ARRN「第 8 回水辺・流域再生に関わる国際フォーラム」は 2011 年 11 月 11 日（金）開催予定！

本年度で 8 回目を迎える ARRN 国際フォーラムは、2011 年 11 月 11 日（金）に開催を予定しております。プログラム概要が決まり次第、皆様にお知らせします。

○開催日： 2011 年 11 月 11 日（金）午後 予定 ○開催場所： 東京

なお、本年の国際フォーラムは、河川整備基金の助成を受けて開催します。

※過去の開催報告はこちらから→ <http://www.a-rr.net/jp/info/letter/eventreport/2326.html>

（その他の河川再生・河川環境に関する主なイベント）

■水の恵み ～東日本大震災を機に考える～

○日時：2011 年 8 月 1 日（月）13:30～16:30

○主催：国土交通省

<http://www.a-rr.net/jp/event/03/2770.html>

■第 154 回 河川文化を語る会 『両河の賜物』

○日時：2011 年 8 月 9 日（火）18:00～20:00

○主催：公益社団法人日本河川協会

<http://www.a-rr.net/jp/event/03/2486.html>

■平成 23 年度 第 1 回多自然川づくり研修会

○日時：2011 年 8 月 9 日（火）18:30～20:00

○主催：西条石鎚ライオンズクラブ

<http://www.a-rr.net/jp/event/02/2785.html>

■第 16 回 水シンポジウム 2011 in きょうと

○日時：2011 年 8 月 11 日（木）～12 日（金）

○主催：第 16 回水シンポジウム 2011in きょうと実行委員会

<http://www.a-rr.net/jp/event/03/2819.html>

■平成 23 年度 第 2 回多自然川づくり研修会

○日時：2011 年 8 月 28 日（日）11:00～14:00

○主催：鞍瀬塾 等

<http://www.a-rr.net/jp/event/02/2786.html>

■第 159 回 河川文化を語る会

○日時：2011 年 9 月 6 日（火）18:00～20:00

○主催：公益社団法人日本河川協会

<http://www.a-rr.net/jp/event/03/2812.html>

■プロジェクト WET エducator 養成講座 in 浜名湖

○日時：2011 年 9 月 10 日（土）～11 日（日）

○主催：PW しずおかネットワーク

<http://www.a-rr.net/jp/event/02/2744.html>

■応用生態工学会 第 15 回金沢大会

○日時：2011 年 9 月 14 日（水）～17 日（土）

○主催：応用生態工学会

<http://www.a-rr.net/jp/event/03/2736.html>

■2011 年度川に学ぶ体験活動全国大会 in 鶴見川流域

○日時：2011 年 9 月 17 日（土）～19 日（月）

○主催：川に学ぶ体験活動全国大会 in 鶴見川流域実行委員会

<http://www.a-rr.net/jp/event/03/2574.html>

■第 160 回 河川文化を語る会

○日時：2011 年 10 月 20 日（木）18:00～20:00

○主催：公益社団法人日本河川協会

<http://www.a-rr.net/jp/event/03/2827.html>

冊子・ビデオ等の紹介

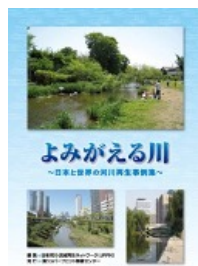
■よみがえる川～日本と世界の河川再生事例集～ （2011.4 発行）

- ・編集：日本河川・流域再生ネットワーク（JRRN）
- ・発行：（財）リバーフロント整備センター
- ・価格：無料

※本冊子の入手方法

本事例集をご希望の方は、JRRN 事務局までご連絡ください。なお、JRRN 会員限定サービスとさせて頂き、送料のみご負担頂いた上で、無料で提供致します。非会員の方は、JRRN 会員登録後にお申込下さい。

info@a-rr.net / 電話：03-6228-3862



■運河と閘門 水の道を支えたテクノロジー （2011.3 発行）

- ・編・著者：久保田稔、竹村公太郎、三浦裕二、江上和也
- ・発行：日刊建設工業新聞社
- ・価格：無料



本書は、運河・閘門の基礎知識を紹介するとともに、北海道から九州まで日本全国の閘門を詳しく紹介する

本冊子をご希望される方は、「（財）リバーフロント整備センター企画グループ」までご連絡ください。送料のみご負担頂いた上で、無料で提供致します。

電話：03-6228-3862

会員募集中

■ JRRN の登録資格(団体・個人)

JRRN への登録は、団体・個人を問わず**無料**です。
市民団体、行政機関、民間企業、研究者、個人等、
所属団体や機関を問わず、河川環境の整備・改善に携
わるすべての方々のご参加を歓迎いたします。

■ 会員の特典

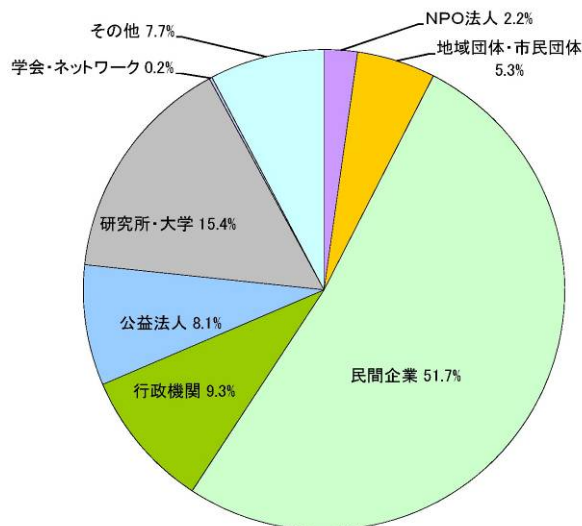
会員登録をされた方々へ、様々な「会員の特典」を
ご用意しています。

- (1) 国内外の河川環境に関するニュースを集約した
「JRRN ニュースメール」が週に1回～2回メール
配信されます。
- (2) 国内外のセミナー、ワークショップ等の開催情報が
入手できます。また JRRN 主催行事に優先的に参加
することが出来ます。
- (3) 必要に応じた国内外の河川再生事例等の情報収集
の支援を受けられます。
- (4) JRRN を通じて、河川再生に関する技術情報やイベ
ント開催案内等を国内外に発信できます。
- (5) 韓国、中国をはじめとする、ARRN 加盟国内の河川
再生関連ネットワークと人的交流の橋渡しの支援
を受けられます。

■ 会員登録方法

詳細はホームページをご覧ください。

<http://www.a-rr.net/jp/info/member.html>



2011年7月29日時点の個人会員構成

(個人会員数：508名、団体会員数：39団体)

JRRN 会員特典一覧表(団体会員・個人会員)

JRRNが提供するサービス		JRRN 団体会員	JRRN 個人会員	非会員 (一般の方)
1	ホームページへのアクセス及び各記事へのコメント入力※1	◎	◎	◎
2	ホームページ「イベント情報」欄でのイベント掲載※2	◎	◎	◎
3	ニュースメール(週2回)の配信※3	◎	◎	×
4	Newsletter(毎月)及び年次報告書(年1回)等の発刊案内メールの配信※3	◎	◎	×
5	JRRN/ARRN主催行事の優先案内・優先参加※4	◎	◎	×
6	国内外の河川再生関連情報・技術収集や専門家・組織紹介の支援※5	◎	◎	×
7	ホームページ「最近の話題・ニュース」及びニュースメール「会員提供情報」欄で 団体が関わる行事や出版、技術や製品等の案内の掲載※6	◎	△※7	×
8	ホームページ「会員登録」「人・組織のつながり」欄及び年次報告書内で団体 名の掲載	◎	×	×
9	ARRN活動に関連する英語ニュース(ARRN Newsletter等)の不定期配信※8	◎	×	×
10	JRRN及びARRNが保有する国内外専門家・団体等との連携等の支援※9	◎	×	×

【発行・問合せ先】



日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN) 事務局

財団法人リバーフロント整備センター 内

〒104-0033 東京都中央区新川1丁目17番24号 新川中央ビル7階

Tel:03-6228-3862 Fax:03-3523-0640 E-mail: info@a-rr.net URL: <http://www.a-rr.net/jp/>

JRRN は、「アジア河川・流域再生ネットワーク構築と活用に関する共同研究」の一環として、(財)リバーフロント整備センターと(株)建設技術研究所国土文化研究所が公益を目的に運営を担っています。

